

『おでかけウォッチャー』でみる 佐賀インターナショナル バルーンフェスタの開催にかかる 人流データの分析

三宅 晃三

はじめに

佐賀インターナショナルバルーンフェスタは、毎年秋に佐賀市嘉瀬川河川敷を主会場として開催される、アジア最大級の国際熱気球大会である。1980年に佐賀で初めて開催され、1984年には国際大会へと発展し、以来40年以上にわたり国内外からトップパイロットを集める競技大会として定着している。本大会は、単なるスポーツイベントにとどまらず、地域観光の核となる存在であり、佐賀県の秋の風物詩として広く認知されている。

2025年大会は、10月30日から11月3日までの5日間にわたり開催された（表1）。会場は嘉瀬川河川

敷で、JR臨時駅「バルーンさが駅」が設置されるなど、交通面でも大規模な対応が行われている。大会には国内外から124機の熱気球が参加し、競技部門「パシフィック・カップ」や、順位を競わない「フェスタ部門」、キャラクターバルーンを用いた「バルーンファンタジア」など多彩なプログラムが実施された。

佐賀平野は、北に脊振山地、南に有明海を望む地形で、風の変化が複雑なため、熱気球競技に最適な条件を備えている。この高度な操縦技術が求められる点が競技の醍醐味であり、世界のパイロットからも高く評価されている。また、本大会は地域経済への波及効果が大きく、宿泊・交通・飲食など観光関連産業にとって重要なイベントである。特に2025年は、悪天候

表1 2025佐賀インターナショナルバルーンフェスタのイベントスケジュール

	10月30日（木）	10月31日（金）	11月1日（土）	11月2日（日）	11月3日（月・祝日）
7時	競技フライト	競技フライト	競技フライト	競技フライト	競技フライト
8時	競技フライト	競技フライト	競技フライト	競技フライト	競技フライト
9時	バルーンファンタジア	バルーンファンタジア	バルーンファンタジア	バルーンファンタジア	バルーンファンタジア
10時					
11時				ホンダトライアルバイクショー	ホンダトライアルバイクショー
12時					
13時	気球教室	気球教室	気球教室	気球教室	気球教室
14時				ホンダトライアルバイクショー	ホンダトライアルバイクショー
15時	競技フライト	競技フライト	競技フライト	競技フライト	キー・クラブ・レース
16時	競技フライト	競技フライト	競技フライト	競技フライト	キー・クラブ・レース
17時					
18時				夜間係留	夜間係留
19時					
20時					

出典) 2025佐賀インターナショナルバルーンフェスタwebサイト (<https://www.sibf.jp/>)

により開催2日目に中止となった前年からの反動もあり、開催への期待が高まっていた。

本稿では、観光人流分析プラットフォーム「おでかけウォッチャー」を用いて、2025佐賀インターナショナルバルーンフェスタの開催が地域の人流に与えた影響を定量的に把握し、集客（観光人流）の実態を検証する。

1 おでかけウォッチャーの概要

「おでかけウォッチャー」は、九州経済調査協会が運営するクラウドサービスで、(株)プログウォッチャー（東京都中央区）が提供する月間約3,000万MAU（月間アクティブユーザー数）分の位置情報データ（スマートフォンアプリを通じ、利用者から明示的な同意を得て取得したマクロデータ）を基に、全国各地の観光スポットへの来訪者数を推計し、週次更新による速報性の高い形で提供している。スポットへの来訪に加え、発地（推定居住地）・属性・旅程（日帰り・宿泊）・時間帯別の来訪者数、スポット間の周遊数等、幅広い観光データを提供している。

2 分析スキーム

本稿では、下記の手順で本大会における人流について分析を実施した。

- ・対象エリア
 - ・佐賀インターナショナルバルーンフェスタ会場（以下、「会場」）(図1)
 - ・佐賀市全域の観光スポット計182ヶ所（以下、「佐賀市」）
 - ・対象期間
 - ・2025年10月30日(木)～2025年11月3日(月・祝日)（本年度大会実施期間）
- なお、前年は本大会が一部日程で中止となったた

め、不開催による影響を把握する目的で、以下の期間との比較分析も実施する。

- ・2024年10月31日(木)～2024年11月4日(月・祝日)（悪天候により2024年11月1日以降中止となった。以下、「前年同期」）
- ・分析項目
 - 1) 来訪状況
 - 2) 来訪者層（属性：年齢・性別）
 - 3) 広域集客力（発地）
 - 4) 周遊行動（スポット間周遊）
 - 5) 宿泊誘発力①（宿泊・日帰り率）
 - 6) 宿泊誘発力②（宿泊先）
 - 7) 時間帯別来訪者数

なお、集計対象となる来訪者の定義は、「スマートフォンユーザーの推定居住地から500m以上離れ、かつ位置情報ログ（5～15分間隔で取得）が勤務地ではない同一エリア範囲内に1日連続2回以上記録された人数をカウント」したものである。

図1 人流データを取得した会場の範囲（複合10mメッシュ）



注）赤枠で示したエリアを来訪者数の計測対象としているが、実際にはその範囲を超えて、来訪者の分布が周辺にも及んでいることを考慮する必要がある
資料）九経調「おでかけウォッチャー（国内版）」

3 分析結果

1) 来訪状況

天候の影響により、10月31日（金）午前の競技フ

ライト、ならびに11月1日（土）午前・午後の競技フライトが中止となった。その結果、日別の来訪割合を確認すると、両日において来訪者数の伸びの鈍化がみられる（図2）。仮に、11月1日（土）に競技フライトが予定通り実施されていた場合、11月2日（日）と同程度の来訪が見込まれた可能性が高いと考えられる。

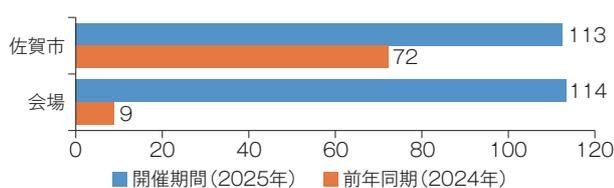
図2 開催期間における会場来訪者割合



資料) 九経調「おでかけウォッチャー（国内版）」

2023年大会の開催時を100とした時に、開催期間の佐賀市への来訪者は113、会場への来訪者は114であった（図3）。なお、開催期間の佐賀市来訪者の37.4%が会場を訪れていた。一方で、前年の2024年大会は台風の影響で初日を除き（5日間で4日間）中止となったことから、佐賀市は72、会場は9にとどまった。今年度も天候要因で一部競技の中止はあったものの、前年同期の約1.6倍の来訪者が佐賀市へ訪れており、大会の開催が佐賀市の人流を大きく押し上げていることを示している。

図3 2023年大会を100とした時の開催期間と前年同期の来訪者指数



注) 2023年大会の開催期間は2023年11月1日～2023年11月5日
資料) 九経調「おでかけウォッチャー（国内版）」

2) 来訪者属性（性別・年齢）

開催期間中に会場を訪れた来訪者の属性を、年間の佐賀市来訪者と比較したものが図4である。開催期間中は女性20～30代の割合が19.8%と年間の18.0%を上回り、同年代男性も同様に23.6%と年間の18.4%を上回っていることから、本大会では若年

層（20～30代）への集客力が強いことが示されている。

本大会では「バルーンファンタジア」や「キッズデー¹⁾」といった、子どもも楽しめるイベントが充実していることから「若年ファミリー層（20～30代）」に加え、いわゆる“SNS映え”を求める20～30代女性の来訪も多かったと考えられる。

図4 性別・年齢構成



注) 年間の対象期間は2024年12月1日～2025年11月30日
資料) 九経調「おでかけウォッチャー（国内版）」

3) 広域集客力（発地）

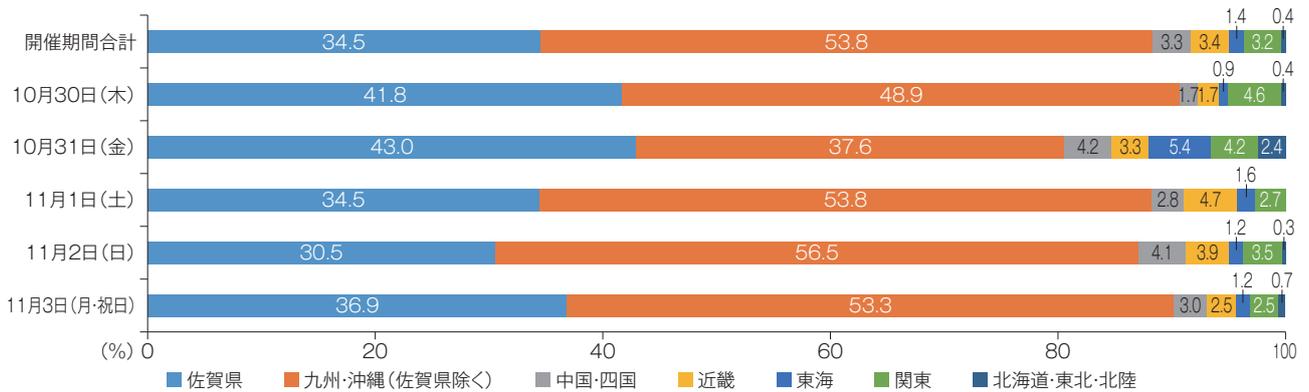
来訪者の発地地域別構成をみると、開催期間を通じて佐賀県内からの来場者が34.5%、九州・沖縄（佐賀県除く）が53.8%となっており、九州地域からの来場者が大半を占めている（図5）。なお、来場者が集中する開催期間後半の週末・祝日は、開催期間前半と比較して佐賀県の比率が低く、九州・沖縄（佐賀県除く）からの来訪者割合が高くなっている。

また、開催期間中の会場来訪者と年間の佐賀市来訪者の発地を比較すると、佐賀県内からの来訪者割合が年間では74.1%のところ、開催期間中は34.5%まで低下している。これに対して、開催期間中は佐賀県外からの来訪者割合が大幅に増加し、福岡県が38.7%、九州以外も11.7%まで高まっている（図6）。大会の開催期間中は、広域からの集客力が高く発揮されていることがわかる。

なお、本大会への来訪率をみるため発地別の人口1万人あたりの会場来訪者数をみると、佐賀県は1,005人となっており、10%を超える高い参加率となっている（図7）。一方、佐賀県に隣接する福岡県は174人であるのに対し、同じく隣接する長崎県は106人、近接する熊本県は75人と地域間で差がみられる。長崎県

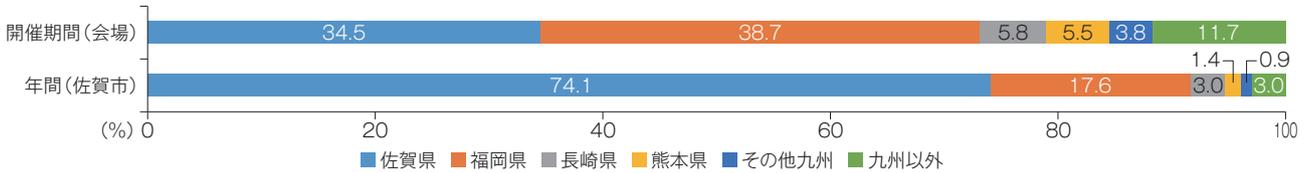
1) バルーンを近くから見たり、球皮を触ったりできる、子どもを対象としたバルーンの学習イベント

図5 会場来訪者の発地（地域別）



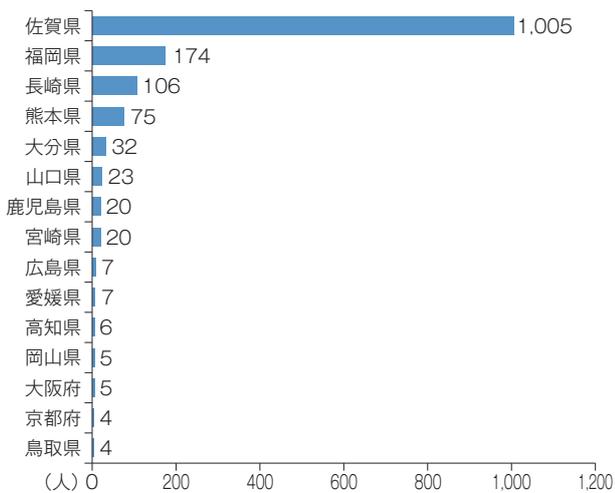
資料) 九経調「おでかけウォッチャー（国内版）」

図6 来訪者の発地（県別）

注) 年間の対象期間は2024年12月1日～2025年11月30日
資料) 九経調「おでかけウォッチャー（国内版）」

や熊本県においてPR活動を強化し、福岡県と同水準の人口1万人あたり174人が来訪したと仮定すると、来訪者数は両県で約2万5千人増加することが見込まれる。

図7 人口1万人あたり会場来訪者数（上位15府県）

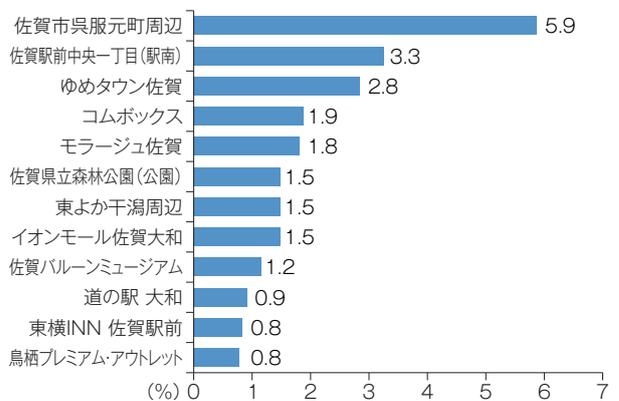


資料) 九経調「おでかけウォッチャー（国内版）」、総務省統計局「人口推計（2024年（令和6年）10月1日現在）」

4) 周遊（スポット間周遊）

開催期間中に会場との周遊が最多（鉄道駅を除く）となったのは佐賀市呉服元町周辺であり、会場来訪者の5.9%が訪れていることが分かった（図8）。本大会では、会場と佐賀市中心市街地との周遊イベント「サガマチ秋遊フェス²⁾」や「2025 サガ・ライトファンタジー³⁾」といった企画が実施されており、中心市街

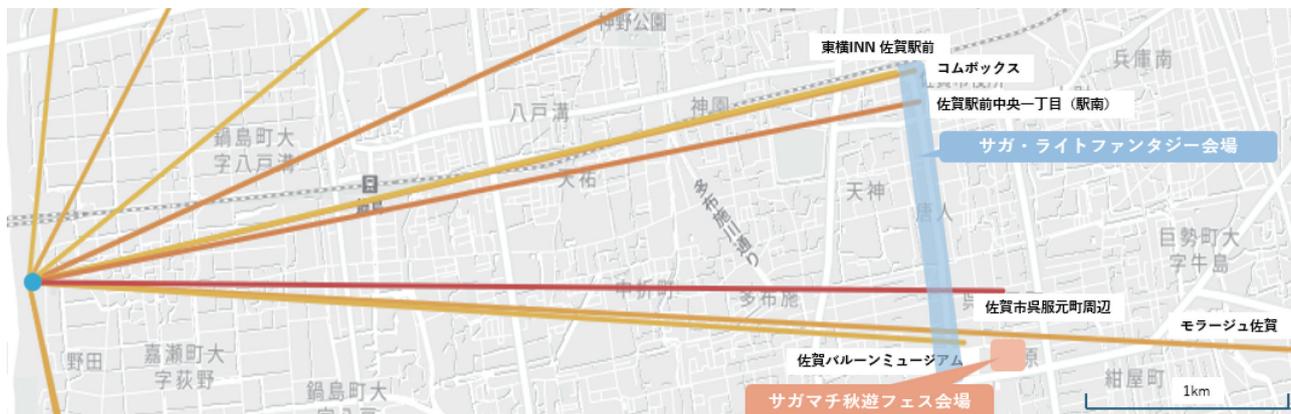
図8 開催期間における会場からの周遊状況（鉄道駅を除く）

注) 会場からの周遊者数全体を100%とした場合の各スポットの周遊割合
資料) 九経調「おでかけウォッチャー（国内版）」

2) 市街地でマルシェの開催やフォトラリーが行われ、バルーンフェスタ会場から循環バスに乗って周遊することができる

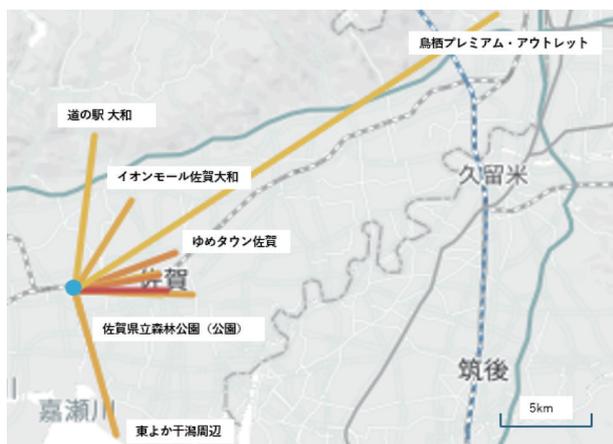
3) 2025年10月1日(水)～2026年1月12日(月・祝日)に佐賀市中央大通りで開催されるイルミネーションイベント

図9 会場との周遊状況（詳細地図）



資料) 九経調「おでかけウォッチャー（国内版）」

図10 会場との周遊状況（広域地図）



資料) 九経調「おでかけウォッチャー（国内版）」

地における催しが集客力を発揮していたことがうかがえる（図9）。また、シチメンソウの紅葉が見ごろを迎えた東よか干潟周辺や、会場から直線距離で約30km離れている鳥栖プレミアム・アウトレットについても、一定数の周遊がみられている（図10）。特に、東よか干潟周辺は、競技フライトの中止が発生した10月31日と11月1日に絞ると、それぞれ2.9%の高い周遊率を示しており、イベントの中止を補う観光資源として寄与していたと考えられる。

5) 宿泊誘発力①（日帰り・宿泊率）

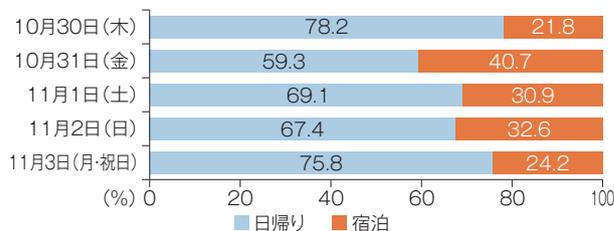
開催期間中の会場来訪者と年間の佐賀市来訪者の

図11 日帰り・宿泊率の比較



注) 年間の対象期間は2024年12月1日～2025年11月30日
資料) 九経調「おでかけウォッチャー（国内版）」

図12 開催期間における会場来訪者の日帰り・宿泊率



資料) 九経調「おでかけウォッチャー（国内版）」

日帰り・宿泊率を比較すると、開催期間中の宿泊率は29.0%であり、年間の11.0%から大きく上昇している（図11）。これは、広域からの来訪の増加に加え、前述の周遊イベントや夜間係留⁴⁾といった大会ならではの企画が、宿泊需要を押し上げたと考えられる。

また、会場来訪者の日帰り・宿泊率を日別にみると、九州以外からの来訪割合が高かった10月31日（金）の宿泊比率が40.7%と最も高くなっている（図12）。

4) 日没後の夕闇に、音楽にのせて熱気球の係留飛行シーンが見られる取り組み。18時30分ごろから開始

6) 宿泊誘発力② (宿泊先)

会場来訪者（宿泊者）の宿泊先をみると、全体の3分の1が佐賀県佐賀市に宿泊している（図13）。一方で、佐賀市以外の佐賀県には23.3%、福岡県福岡市には13.0%、福岡市以外の福岡県には16.6%が宿泊しており、滞在先は複数の地域に分散していることが分かる。これは、佐賀市の宿泊施設の収容力に限界があるため、宿泊需要の一部が周辺地域へ流れているためと考えられる。

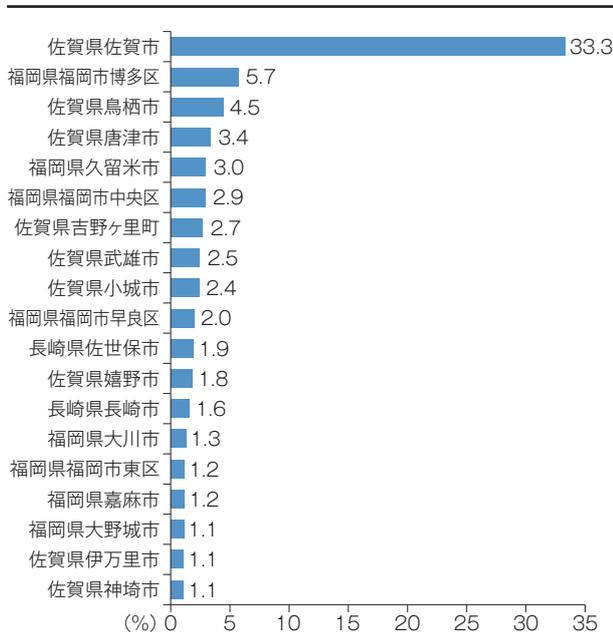
宿泊先を上位から見ると、佐賀県佐賀市に続いて福岡県福岡市博多区、佐賀県鳥栖市、佐賀県唐津市などが有力な宿泊先となっていることが分かる（図14）。

図13 開催期間の会場来訪者の宿泊先割合



資料) 九経調「おでかけウォッチャー（国内版）」

図14 開催期間の会場来訪者の宿泊先

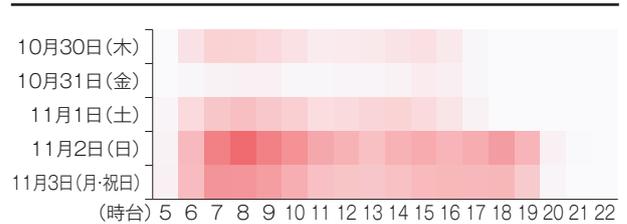


注) 会場来訪者の宿泊者全体を100%とした場合の各自治体への宿泊割合
資料) 九経調「おでかけウォッチャー（国内版）」

7) 時間帯別来訪状況

来訪者数は朝7時頃にピークを迎えており、7時から

図15 開催期間中の時間帯別来訪者数



資料) 九経調「おでかけウォッチャー（国内版）」

の午前の競技（一斉離陸⁵⁾など）を目当てに早朝から訪れる人が多かったことがうかがえる（図15）。加えて、11月2日と3日の18時頃にも人出が増えており、18時30分からの夜間係留イベントが集客を後押ししたとみられる。

4 まとめ

2025佐賀国際バルーンフェスタの開催により、大会の大部分が中止となった前年同期と比較して、佐賀市への来訪者は約1.6倍増加した。本年も一部競技が中止されたことから、来訪者数にはさらなる増加の可能性が残されていると推察される。また、男女ともに20～30代の若年層への集客力が高いことに加えて、本大会の開催を通じて、佐賀県外からの広域集客が顕著に高まり、宿泊率が上昇することが明らかになった。さらに、周遊イベントの実施により、会場と佐賀市中心市街地をつなぐ人流の活性化がみられた。

一方で、福岡県と比較すると、長崎県や熊本県からの来訪者数には伸びしろがあると考えられる。これに対しては、長崎県や熊本県での認知度向上を目的とした広告展開やプロモーションイベントの実施、両県からの分かりやすいアクセス情報の発信などが有効と考えられる。仮に福岡県と同水準の来訪者割合となれば、約2万5千人の増加が見込まれることも試算された。

また、宿泊需要の一部が佐賀市から流出していることが示唆されたが、供給上の制約を短期的に解消する

5) 河川敷から一斉にバルーンが飛び立つ景色が、視覚的に魅力的で人気となっている

ことは難しいものの、唐津市や鳥栖市が有力な代替宿泊先となっている現状を踏まえ、これら周辺地域のアクセス利便性のPRなどを通じて、佐賀県内での宿泊需要の分散を図ることも一つの戦略となりうる。

本分析を通じて、佐賀インターナショナルバルーンフェスタの開催が地域の人流や経済に与える影響を多角的に把握することができた。今後も、おでかけウォッチャーを活用した観光分析を継続することで、イベントの価値向上や地域活性化に資する具体的な施策の立案に役立てていきたい。

三宅 晃三（調査研究部 研究員）